

AICHI  
PREFECTURAL  
MUSEUM  
OF  
ART

MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会・会報 第40号

# 空中回廊

この展覧会は、青春の記念碑 [『月映(つくはえ)』展] / 会員のひろば /  
「APMoA Project, ARCH」をご存じですか? / 愛知県美術館コレクシ  
ョンから [国吉康雄 《帽子の女》] / 友の会活動紹介



○この展覧会は、青春の記念碑

## 『月映(つくはえ)』展

田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎

4月17日(金)から5月31日(日)まで開催

大正初期の若き芸術家たちが生と死に向き合いながら創り出した詩と創作版画の雑誌『月映(つくはえ)』。今回の展覧会では、その『月映』が刊行されて100年を迎えることを記念し、全貌をふり返り、その内容と意義を日本の近代美術史の中で確認します。

### 第1章 『月映』前夜

田中恭吉は1892年、和歌山市に生まれ、1910年18歳で上京して洋画研究所に通い、そこで藤森静雄、大槻憲二と知り合います。翌年、東京美術学校(現在の東京藝術大学)の日本画科に入学。恩地孝四郎、香山小鳥、竹久夢二たちと交流を深めていきます。友人らと回覧雑誌『ホクト』や『密室』を発行。また、雑誌『少年界』『少女界』に絵や詩歌を発表しています。

当時の美術界では版画は、高等な芸術であるとは見なされておらず、彼らはそれに抗って自画・自刻・自摺の「創作版画」を追求しました。ムンクや表現主義などの図版を目にしつつ、美術と文芸の両方で積極的に活動しました。

しかし、1913年に友人の香山小鳥が肺結核で死去。21歳の恭吉も体調を崩し、秋には咯血します。



田中恭吉《冬虫夏草》(公刊『月映』Ⅲ)1914年  
木版(機械刷り)、紙 愛知県美術館

### 第2章 『月映』誕生

1914年初め、夢二の画集を発行した洛陽堂が彼らの雑誌の出版を引き受けることになりました。恭吉は恩地と藤森を誘い、自ら「月映 TSUKUHAÉ」と命名した詩画集を企画します。3人は夢中で木版画の制作に取り組み始めました。4月には手刷りで3部限



藤森静雄《夜》(公刊『月映』I)1914年  
木版(機械刷り)、紙 愛知県美術館

定の私輯(私家版)『月映』第I輯を発刊。しかし、恭吉は療養のために帰郷することになります。彼は衰弱し死の影に怯えながらも、藤森や恩地らに企画案や詩や絵の作品を送り届け、私輯も次々と刊行しました。

### 第3章 『月映』出版

その年の9月、念願の公刊『月映』第I輯を機械刷り200部限定で発刊。その後も恩地が編集を担当し、次々と刊行します。1915年5月には公刊第VI輯まで刊行しますが、恭吉の病状は悪化。10月23日、23歳という短い生涯を閉じます。

恩地と藤森は公刊『月映』第VII輯を「告別」と題して出版。恭吉を亡くした『月映』はこの号で終刊となりました。

### 第4章 『月映』のゆくえ 青春の記念碑

恭吉の亡きあと、恩地や藤森たちは作品を取り纏め、日比谷美術館で「田中恭吉遺作展覧会」を開催



恩地孝四郎 扉[EX·LIBRIS 死によりてあげらるる生](公刊『月映』IV)1915年 木版(機械刷り)、紙 愛知県美術館

恩地の抽象的な装幀と恭吉の透明感のある作品で、当時の人々に視覚的にも強い印象を残しました。

この3人が創り出した『月映』の作品群は、近代日本版画の歴史の中で鮮烈に輝く記念碑となっています。



田中恭吉《太陽と花》(公刊『月映』I)1913年 木版(機械刷り)、紙 愛知県美術館

します。その後、2人は日本創作版画協会の発足に携わるなど、版画芸術の確立や普及に大きな役割を果たしました。

萩原朔太郎は、恭吉の作品を『月映』で知り、彼に挿画を依頼していました。前衛的な詩集『月に吠える』は恩地が装幀を担当し、恭吉の遺作などを載せて1917年に出版。新しい可能性を開いた詩に加えて、

この展覧会で彼らの追求した純粹さを味わってみてください。

※この記事は本展覧会を担当される塩津学芸員へのインタビューを参考に構成しました。

次回展覧会 生誕110年 片岡球子展

2015年6月12日(金)~7月26日(日)

## 代表作、ずらり。なかには知る人ぞ知る作品も… この夏、必見の回顧展

鮮やかな色彩、大胆なデフォルメ、力強い筆遣い…一度見たら忘れられない迫力の作品が愛知県美術館に集います。愛知県立芸術大学では開学時から日本画科の教授として長く指導にあたるなど、愛知にも縁の深い作家 片岡球子の回顧展です。

その強烈な作風は、戦後の日本美術院において他の作家の追随を許しませんでした。戦後、それまでの日本画のあり方に批判が加えられ、作家たちが伝統にとらわれない主題や造形によって新しい日本画を切り拓こうと模索するなかで、球子もまた、自身の個性的な作風をつくりあげていきました。

球子の制作は、対象をじっくりと観察することから始まります。庭の花木から全国の花々まで、時間をつくってはスケッチしていた球子の眼に、眼の前の対象はどのように映っていたのでしょうか。本展では代表作約60点とともに、遺されたスケッチや資料類も展示します。本展のために、球子のスケッチブック約350冊から約40冊が選り抜かれました。球子の画業をたどるとともに、彼女がどのように眼の前の世界に向き合い、何をとらえ、表現していったのか、その制作の核心を探ることも本展のテーマのひとつです。

103歳で亡くなるまで、芸術に対してひたむきに、毎日勉強、生涯現役を貫いた片岡球子の創作の軌跡を、ぜひ会場でご覧ください。

(学芸員 中野悠)



《幻想》1961年 紙本彩色 神奈川県立近代美術館

○会員のひろば○

# 「これからの写真」展に友の会が協力！ 懇親バスツアー／20周年記念連続講座 愛知県美術館友の会連続講座

## 「これからの写真」展に友の会が協力！

昨年開催された「これからの写真」展で、所蔵作品管理サポート部会のみなさんが今までにない作業に取り組みました。田村友一郎氏の展示に使われたソファのクッションを制作したのです。

アーティストから、業者ではなくて身近な家族のような一般の方に制作を手伝っていただきたいというお話があり、「友の会」に白羽の矢が立ちました。

展覧会に直接携わる貴重な機会ともなった今回の作業でしたが、開催間際に完成した「友の会作品」の仕上がりの良さにはびっくりさせられました。



インスタレーション作品《T氏の部屋》



田村氏と制作中のサポーター



ミシン掛けの作業



ボタン付けの作業

### ◆懇親バスツアー開催！

さる11月18日、懇親バスツアーが開催されました。今回の行先は飯田市美術博物館、飯田市川本喜八郎人形博物館、そして駒ヶ根高原美術館の三館です。それぞれ趣のちがう作品を鑑賞し、バスの中では恒例の村田館長のトークに癒され、会員同士のおしゃべりを楽しみ、美味しいさくら肉ランチに舌鼓をうつ。今回も友の会の企画ならではの芸術とグルメの秋を満喫した楽しい一日となりました！



駒ヶ根高原美術館前にて



おいしいランチを楽しむ

## 20周年記念連続講座

友の会発足20年の記念として愛知県美術館にご協力いただき、所蔵作品をテーマにした連続講座を開催しました。第1回は高橋秀治副館長によるジム・ダインの《芝刈機》。続いて第2回は古田浩俊企画業務課長によるクリムトの《黄金の騎士》。第3回は村田眞宏館長が、熊谷守一《雨滴》《白仔猫》をテーマにしたお話で締めてくださいました。

所蔵作品展を訪れた際の、作品との対話が楽しみです。(M. T.)



《黄金の騎士》について語る古田課長



熊谷守一のエピソードを語る村田館長

## 愛知県美術館友の会連続講座 行間を読む「西洋美術史」江本菜穂子氏 名古屋造形大学・大学院教授

11月29日、友の会連続講座がアートスペースで行われました。3回連続で講義をして下さるのは、名古屋造形大学・大学院教授の江本菜穂子先生です。

第1回は「神を表現するには—古代から中世」を副題にしてお話を伺いました。

今回は「行間を読む」という主題で、単なる正統な美術史の流れに隠れている宗教美術の一端を聞かせていただきました。

エジプトから始まり、古代ギリシャ、ローマ時代と続いた宗教美術ですが、そこにキリスト教が入り、コンス



熱弁をふるう江本教授

タンティヌス帝がキリスト教の新都市をコンスタンティノープル(イスタンブール)に建設したことから、東西ローマ帝国に分裂、ビザンティン時代へと大きく枝分かれします。

ビザンティン帝国は偶像破壊運動に巻き込まれ、美術品を多く残すことができず、イコンなどで偲ぶことになります。その後キリスト教美術は西欧で広まりロマネスク、ゴシックと発展していったのだそうです。

短い時間の中で中身の濃い講義でした。(K. I.)

○愛知県美術館より○

# 「APMoA Project, ARCH」をご存じですか？

「APMoA Project, ARCH」とは、愛知県美術館の学芸員と作家との協同によって作られる展覧会です。ARCH(アーチ)という名前には、このプロジェクトが作家の表現活動をサポートし、作家、美術館、鑑賞者の架け橋となることができれば、という思いが込められています。愛知県美術館の学芸員が、いま紹介するにふさわしい作家を選び、企画展の会期に合わせて紹介されてきました。

デュフィ展の会期では、占部史人さんの「七つの夜の海」が企画されました。展覧会后にいただいた、本人のコメントをご紹介します。

## 《七つの夜の海》

美術館の中に静かな夜の海を表現したいと思い制作を始めました。風と海流によって広大な海を旅した人々をイメージしています。作品を観る人も海の中を漂流して島々を巡るような感覚を味わってもらえるような空間にしました。舟の作品の素材になっているのは、かつて海を漂って砂浜に流れついた流木です。それと同じように、作品も、鑑賞者も、作者である私もまたこの世界中を漂って素敵なものに巡り逢っていくことでしょう。この作品がそんな素敵なものの一つになってくれたらと思います。

占部史人(うらべ・ふみと)



占部史人《七つの夜の海》 撮影：怡土鉄夫

## ARCH 来年度の予定

vol.14 名古根美津子

vol.17 松村かおり

vol.15 今枝大輔

vol.18 水戸部七絵

vol.16 飯山由貴

愛知県美術館友の会は、団体も入会していただくことができます。現在ご入会いただいている団体は、名古屋芸術大学、株式会社MARUWAの2団体です。ご協力ありがとうございます。



### 名古屋芸術大学

大学院音楽研究科/音楽学部/人間発達学部

〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地  
TEL(0568)24-0315 FAX(0568)24-0317

大学院美術研究科/美術学部

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地  
TEL(0568)24-0325 FAX(0568)24-0326

大学院デザイン研究科/デザイン学部

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地  
TEL(0568)24-0325 FAX(0568)24-0326



### 株式会社 MARUWA

〒488-0044 愛知県尾張旭市南本地ヶ原町三丁目 83 番地

TEL (0561) 51-0841

<http://www.maruwa-g.com>

### 株式会社 MARUWA SHOMEI

〒110-0015 東京都台東区東上野一丁目1番12号栗橋ビル

TEL (03) 5812-0870

<http://www.maruwa-shomei.com>

### 株式会社 MARUWA QUARTZ

〒963-7704 福島県田村郡三春町大字熊耳字大平 7-1

TEL (0247) 62-0012

<http://www.maruwa-g.com>

○愛知県美術館コレクションから一深く知ると、もっとみえてくる○

くによし やすお  
国吉康雄 《帽子の女》

(編) ここでご紹介する所蔵作品《帽子の女》の一部分を、本会報表紙に原寸大で掲載しました。

岡山市に生まれた国吉は1906年17歳でアメリカに渡りました。当時西海岸では東アジアからの移民が急増しており、日本人移民へも排斥気運が高まっていた難しい時期でした。しかし彼は農場の果物摘みなどの労働をしながらも公立学校へ通い、教師から絵の才能を認められて美術学校へ進みました。

さらにニューヨークへ移り、美術学校アート・ステューデントズ・リーグに入って多くの美術家仲間を得ます。ここには愛知県とも関係の深い北川民次も在籍していました。国吉はアメリカン・フォーク・アートの影響の見られる作品で才能が認められ、次第に支持者も現れました。さらに、リーグの同窓生キャサリン・シュミットとの結婚を経てアメリカの美術界や社会へ受け入れられていきました。また同じ頃ブルガリア生まれのジュール・パスキンとも知り合い、その誘いもあって2度フランスを訪れ、パスキンに倣って娼婦やサーカス芸人をモデルに使うようになります。国吉は1929年開館したばかりのニューヨーク近代美術館で開かれた「19人のアメリカ現代画家展」の一人として選ばれ、のちにアート・ステューデントズ・リーグの教授となったのをはじめアメリカを代表する画家として認められていきました。

国吉は日本生まれでしたが美術家として大成し、戦後にはホイットニー美術館で存命中の画家としては初めての個展が開かれたり、ヴェネチア・ビエンナーレのアメリカ代表に選ばれたりしたことで、アメリカが自分を育ててくれたと強く感じており、公正で自由な民主主義を信奉していました。しかし、人種差別は根強く特に戦中期は敵性外国人として難しい立場に立たされ、それゆえの苦悩も大きく、1953年に亡くなるまでアメリカの市民権は得られませんでした。そうした社会的環境が作品に色濃く反映されていきます。

この作品は画歴のなかでは最も早い時期に属します。1913年アメリカ近代美術史上重要な展覧会

アーモリー・ショウが開かれ、当時のフランス美術が紹介されて、若い作家たちを大いに刺激しました。国吉はこの展覧会を見ていませんが画家仲間から熱く語られるその展覧会に出品された美術動向を受け取り、苦勞しながら印象派に始まってキュビズムに至るまでの影響の感じられる作品を残しています。この作品も描き方を見ると、キュビズムを意識していることがわかるでしょう。女性の背後には海に突き出て立つ灯台や小さな船の見える海岸が描かれています。画家仲間と夏に滞在し、またキャサリンと結婚式を挙げることになるメイン州の海と思われます。

描かれた内容とは関係ありませんが、この作品を収集したときのこと、私が情報を最初に得たのですが、来歴がはっきりせず、収集することに躊躇がありました。別件でニューヨークへ出張した折に、国吉の作品を多く扱ったことのある画廊を訪ね、その画廊が扱ったことを確認、さらにロングアイランドの個人蔵であったことも分かったので、安心して収集するに至った作品です。

(高橋秀治)



国吉康雄《帽子の女》1920(大正9)年

■学芸員の横顔

高橋秀治(たかはし・しゅうじ)

岐阜県可児市出身。岐阜県美術館開館を経て、1986年から愛知県美術館の計画作りから参画し、あっという間に28年。この美術館とともに人生を歩んできました。





## 美術館から

### 防災について

愛知県美術館では去る10月21日に避難訓練を行いました。これは当館としては久しぶりにハロンガスによる消火活動を想定したものです。当日は文化庁事業の「みんなで守るミュージアム」視察団の皆さんも、はるばる九州と山口から来られて訓練と反省会の両方に参加して下さいました。

また、愛知県内の博物館約120館が加盟する組織として、愛知県博物館協会がありますが、今年度は当館が中心となって協会独自の「災害発生時における支援活動実施要領暫定版」を策定しました。これは来年度に正式版として承認される予定ですが、東日本大震災の文化財レスキューに積極的に関わってきた美術館として、この地域の加盟館がいざという時に「助けられ上手」になれるように、と努力した結果です。

こうした防災にまつわる仕事は目立たない活動ではありますが、気を緩めずに普段から地道な対策を続けたいと考えています。

(学芸員 石崎尚)

## 第40号 友の会活動紹介

期間 2014年10月—2015年3月

★中面で紹介

### 「デュフィ」展

10月 他館鑑賞会(熊谷守一展) 岐阜県美術館



10月10日秋晴れの午後、石崎学芸員のご案内で守一の初期から晩年までの、様々な分野のおびただしい作品を比較鑑賞できました。遠くまで来たかきがありましたというのが多くの会員の感想です。(H.A.)

10月 特別鑑賞会(昼・夜)



カラフルな色彩に躍動感のあるタッチ。チャーリー・チャップリンのモチーフも発見!進化をし続けるデュフィ芸術に引き込まれ、特別鑑賞会の時間があっという間に感じられました。(O.M.)

10月 懇親バスツアー★



駒ヶ根高原美術館では充実した浜田知明の彫刻群、展示を工夫した藤原伸也の写真が見られてよかった。時間に余裕があったので近隣の光前寺に寄った。荘厳な雰囲気、庭の苔、三重の塔が美しかった。(T.K.)

11月 西洋美術史連続講座 第1回 江本菜穂子教授★  
12月 西洋美術史連続講座 第2回 江本菜穂子教授

### 「ロイヤル・アカデミー」展

2月 特別鑑賞会(昼・夜)  
3月 西洋美術史連続講座 第3回 江本菜穂子教授

### 定例活動

所蔵品管理12回 モニター2回 発送2回 受付のべ8回  
広報 6回 ホームページ 随時更新

**これからの展覧会のご案内**

<p><b>月映展</b> 4月17日(金) → 5月31日(日)</p>	<p><b>片岡球子展</b> 6月12日(金) → 7月26日(日)</p>
<p><b>芸術植物園</b> 8月7日(金) → 10月4日(日)</p>	

## 友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は、下記までお問合せ下さい。

- 10階愛知県美術館受付
- 友の会事務局(火・木・土 10:00-16:00)

052-971-5511(代) 内線347  
tomonokai@aac.pref.aichi.jp

### 編集後記

今号の表紙をご覧になって、「何だコレ?」と思われたでしょう。本文7ページで紹介の《帽子の女》の原寸大部分です。実物大になっているそうですが、展示室に持って行って実物にあてがってみたりはしないでくださいね。(M. K.)

- 編集 松下智子/富永晃一/大矢真美代/喜田泉/小林克敏  
塚本薫子/平松章子/宮崎玲子/森健次/三ツ葉浩子
- 協力 愛知県美術館
- 発行 2015年3月  
愛知県美術館友の会  
〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2  
愛知芸術文化センター内  
TEL 052-971-5511(代)内線347  
FAX 052-971-5617  
E-mail tomonokai@aac.pref.aichi.jp  
美術館WEB <http://www-art.aac.pref.aichi.jp>